

平日での震災時避難所運営訓練

～日中児童のいる中で、地域と小学生の交流（大矢部小学校避難所運営委員会）～

●地震災害は、時間帯や場所を問わず、突然襲ってきます。

それを踏まえて、大矢部小学校避難所運営委員会では、平日の午前中に震災が発生した場合を想定して、平日での訓練を実施しました。平日の午前中にもかかわらず、地域住民74名の参加がありました。

一時避難地からの集団避難を経て小学校に参集した後、被害状況の確認や避難所運営の各活動班の活動、VRゴーグルを使用した地震体験車、家庭科室で炊飯袋を使用した給食訓練、多数の器材の取り扱い訓練、市職員の能登半島支援活動報告など、盛りだくさんの内容で実施しました。

●大矢部小学校4年生、約60名が参加。

平日での訓練は、児童のいる中での訓練となり、大矢部小学校4年生の約60名が参加し、小学生への防災教育に大きく貢献しました。地震体験車や、普段見ることのない防災収納庫の見学、様々な防災器材の取り扱い訓練など、どのブースも熱心に取り組んでいる様子が伺えました。防災器材の取り扱い訓練では、ほとんどの器材を地域の方が説明していたこともあり、地域と小学生の交流も見られました。また、児童だけでなく、教職員からも質問が挙がるような場面があり、小学校全体の防災に対する関心の高さを感じました。

●大矢部小学校避難所運営委員会では、平成27年（2014年）に結成して以来、様々な訓練を取り入れてきました。

令和5年（2023年）には、夜間に震災が発生したことを想定した夜間対応訓練を実施し、約80名の地域住民が参加しました。

夜間の対応は、日中に比べ避難や作業が各段に困難になるため、地域連携が特に重要になります。約80名の中には、町内の自主防災組織・民生委員・体育振興会・住民の方々など、地域活動の役割を担う方々が参加しました。

夜間では、特に照明の確保が重要なことを確認しました。防災収納庫内にも乾電池式のライトが備蓄されており、改めて照明の必要性を感じました。